

様々な機会に自然観察を 活かすことの大切さとその心得

一寸木 肇



自然観察を活かすことの大切さ

○生物多様性・自然環境の危機・防災

⇒地域の自然を理解⇒地域の自然を守る

○教育現場の限界

⇒幼児・児童・生徒の自然体験・生活経験の場

○社会の中での孤立

⇒子育て世代への支援(自然への親しみ方)

○過度の情報社会⇒生きものとしての覚醒

○仮想現実・実感の喪失⇒豊かな感性の醸成

○超高齢化社会・働き方改革

⇒自分の楽しみ、生きがい(主体的に関わる)

⇒休息、リフレッシュ、癒し(心地よさ)

○既成のコミュニティの喪失と新しいコミュニティの必要性

⇒コミュニケーションの場やツール(発信・共有)

伝えるって…

なにを…
いつでも…
どこでも…
だれにでも…



でも、どうやって…？

次のようなことに配慮して

9 参加者を把握しよう



発行 公益財団法人 日本自然保護協会 (1981)

42 説明よりも質問を



自然観察会での心得

- ・最良の指導員は自然
- ・指導員は支援者・ムードメーカー
 - ・「場の演出家」・ファシリテーター
- ・指導員は参加者とともに楽しむ
- ・相手の発見・発言を活かす
- ・皆さんの思い・思い出を引き出す・
受容する
 - ※皆さんの思い(既習経験・思い入れ)
も、感じ方もそれぞれ
- ・みんなで喜びや楽しみを分かち合う
- ・つないでいく(自然と人 人と人)

◎自然観察≠自然解説

これからの自然観察会は

- ・相手に伝える
- ・相手に**関心をもつ**
- ・相手から聴く
- ・相手から感じ取る

- ・自然に親しむ
- ・自然を知る
- ・自然に**関心をもつ**
- ・自然を守る



- ・自分が生きている実感
- ・自分に**関心をもつ**
- ・自分らしさを取り戻す
癒やし・バランス



- ・共有したい
共感したい

自己診断してみましよう

- 1 相手とよりよい関係をつくろうとしているか
- 2 相手の思いを汲み取ろうとし、時には代弁できそうか
- 3 相手の発見や驚きを逃さず受容し、他の参加者と共有して、共に喜んでいるか
- 4 たとえ間違った情報でも、相手を否定せず、耳を傾け、観察活動に活かそうとしているか
- 5 一方的に話していないか
- 6 「なぜ?」「どうして?」は参加者からのつぶやき(問いの工夫)
- 7 自然観察を通して、皆さんと心地よい思いを共有できるか
- 8 皆さんが活躍できる場を設定しているか
- 9 「今日、皆さんにお会いできて、本当によかった」と言っているか
- 10 「また参加したい」「うちに帰っても観察したい」と思ってもらえるか
- 11 「いつでも・どこでも・だれとでも」を念頭に置いているか
- 12 自分を少しでも変えていく勇気を持とうとしているか

NACS-Jは、いままでも、これからも

ネイチャ・フィーリング

- ・五感を活かして
- ・誰とでも
- ・学び合う



『自然保護』
(2019) Vol.571 より



指導員のあり方を見直しましょう

- ・相手の良さを見つけ、引き出し、共有する
- ・相手を活かす

年齢・性別・立場・・・

- ・地域の良さを伝え、守る
- ・リピーターを育てる
- ・誰からも教えを乞う謙虚さを持つ

=今までの自分にとらわれず、変わる勇気を！

あなたから「ありがとう」を

ご静聴ありがとうございました

